

◎直腸腔瘻ニ就テ

會員 木村辰次郎

元

抑モ腔ト直腸トノ異常ノ交通卽チ直腸腔瘻ハ極メテ稀有ノ疾病ニ屬スルモノニシテ諸多ノ成書ヲ繙トクモ其記載極メテ單簡ナリトス而シテ生殖器瘻中尿管生殖器瘻ニアリテハ敢テ稀有ノ疾病ニアラス此中屢々見ル所ノモノハ尿道腔瘻膀胱腔瘻ニシテ子宮瘻、直腸瘻ニ至リ

テハ稀有ナル婦人科の疾病ニ屬ス諸氏ノリテラトール中直腸腔瘻ハ實ニ少シトス余ハ金澤病院ニ於テ醫學士山田教授ノ「グリニク」ニ於テ此稀有ナル疾病ニ相遇スルノ幸ヲ得タレハ左ニ其一般ヲ記載シ合セテ諸氏ノ成書ニ付テ其一汎ヲ左ニ記載セントス

本症ノ依テ來ル原因トシテ其多數ハ分娩時ニ關係ヲ有スルモノナリト雖トモ彼ノ尿管腔瘻ノ如ク分娩時ニ受クル兒頭過大位置異變等ニヨリ壓滅若クハ挫滅セラレ其部壞疽ニ移行シテ脫落シ管瘻ト成ルコトナクシテ會陰破裂ノ高度ナルモノカ全癒着スルコトナクシテ瘻管ヲ殘留スルモノニシテ卽チ出産ニ際シ兒頭過大若クハ異常ノ位置ヲ以テ出産ニ困難ヲ極ムルカ若クハ醫師産婆等ノ會陰保護法ノ不完全ナルニ歸因スルモノニシ其烈傷部タル厚キ會陰層ハ癒着スルト雖トモ其薄弱ナル直腸腔ノ中隔ハ癒合スルニ困難ナリ何トナレハ該部分

ノ結締織ノ粗鬆ナルト筋質ノ薄弱ナルトニ歸因スルノ
ミナラス常ニ産褥分泌物若クハ糞汁ノ浸潤スルニヨリ
其癒着ヲ防害セラル、モノトス此他癌腫性荒蕪、等閑
ニ附シタル「ベッサリーム」外傷膿瘍ヨリ來ルハ稀レナ
リト(しろいである)氏又分娩時ニ膈ノ后穹隆部ニ裂傷ヲ
生シ腸蹄係カ漸次脫垂若クハ箝頓シテ壞疽ニ移行シ若
クハづぐらす氏腔内ニアル腸蹄係強ク壓迫スル爲メ其
癒着シタル後チ膈后穹隆内ニ穿行スルニヨリ小腸痿ヲ
生スルヲ稀レニ存スル所ナリト(しろいである)其他二三
ノ諸氏)

然シテ直腸腔癭ハ其度ニヨリ二種ニ區別ス即チ左ノ如
シ

甲 第一度ノモノ、直腸ト膈トノ異常ノ交通癭ノ極メ
テ小ニシテ其漸ク瓦私ヲ通スルニ足ルモノ

乙 第二度ノモノ、直腸ト膈トノ異常ノ交通癭ノ大ニ

シテ糞便ヲ排泄スルニ足ルモノ

乙ノ場合ニアリテハ更ニ此レヲ區別シテ二トス曰ク腔
壁全破裂曰ク腔壁不全破裂ニシテ或ハ其高度ノモノハ
膈后壁ノ後天性欠存トシテ可ナリ症狀トシテハ甲者ニ
アリテハ腸瓦私ヲ其癭孔ヨリ排出スルカ若クハ糞汁ノ
排泄(下痢ノ際)セラレテ局部糜乱スルニ止マルト雖モ
患者放屁ヲ念フトキハ膈外陰部ニ一種ノ風感ヲ發スル
モノトス乙者ニアリテハ不隨意ニ孔ヨリ糞便ヲ排出
スルモノニシテ此不隨意的排泄ハ極メテ不快ニシテ局
部ヲ刺戟シ稍々モスレハ腐敗シ甚タ患者ヲシテ苦ムル
モノタルヤ論ヲ竣タス然リ而シテ此レヲ診斷スルニ當
リ乙ノ場合ニアリテハ容易ニ診斷シ得ルト雖モ甲ノ場
合ニアリテハ容易ニ發見スル能ハス彼ノ極メテ小ナル
痔癭ノ如ク患者ノ數ハニヨリ初メテ知り得ルカ如キヲ
アルモ多クハ腔皺襞若クハ陰唇等ノ爲メ障害セラレ發

見スルニ困難ヲ極ムルカ若クハ等閑ニ附シルヲ多シト
ス況ンヤ其局狹隘ニシテ外部ニ現ハレサルノ部ナレハ
ナリ然リト雖モ直腸腔ノ双合診ヲ應用スルキハ指間ニ
一ノ索狀トシテ觸診シ得ルカ如シト雖モ此レ又熟練家
ニアラサレハ容易ニ知リ得サルモノトス幸ニシテ發見
シ得タル時ハ其直腸瘻ナルカ小腸瘻ナルカヲ區別セサ
ルヘカラス此レカ爲メニ消息子ヲ挿入シテ其ノ消息子
尖端ノ直腸内ニテ觸ルハ否ヤニ注目ス若クハ直腸内
ニ有素性液ヲ注入シ腔内ニ出ツルヤ否ヤニヨル小腸
腔瘻ニアリテハ常ニ稀薄流動性ノ黃色食糜ヲ排出スル
カ若クハ食后二三時間ヲ經過シテ食糜ヲ流出スルモノ
トス

タルモノニノ僅カニ「メモランド」中ニ其一部ヲ記シ置
キタルヲ以テ其既往症ヲ詳カニセス
A 備前國上道郡西大寺村林某女年齡二十一才職業料理
店下婢明治二十四年六月頃ヨリ偶然腔入口部ニ一種異
常ニ感覺ヲ呈シ下痢等ノ際糞臭汁ヲ出シ陰唇部ニ小疹
ヲ發生シテ搔痒著シト云フ此レヲ檢スルニ初メハ毫モ
變化ヲ認メサリシモ双合診ニヨリ索狀物アルヲ認メタ
ルヲ以テ長時ヲ費シテ或ハ洗滌シ或ハ拭除シテ漸ク腔
入口ヨリ凡ソ二cm程后部ニ發見シタリヨク檢スルニ孔
ハ多少陷收シテ周邊稍々膨隆セリ漸クニシテ消息子ヲ
挿入シ直腸ヨリ檢セシニ其消息子尖端ヲ觸レタリ依テ
直腸腔瘻ト診斷シタリ
B 石川縣金澤市中川除町水牧某女年齡十八年十ヶ月職
業 患者幼稚ノ時ヨリ虛弱ニシテ胎毒多シト云ヘリ
十二三才ノキ間歇熱ヲ患ヒ十三四才ノ頃麻疹ヲ經過セ

シ他會テ大患ニ罹リシヲナシ十八才三月ニ於テ初メテ
月華來潮シ少量ナルモ三日間ニ涉レリ初經前ニアリテ
ハ多少身体異和ヲ呈シ腹部索引ノ感覺アリシト云フ而
ノ爾來月經整然ニシテ遲達若クハ不正ヲ呈セシヲナシ
然ルニ昨年七月ヨリ經血ヲ見サルニ至レリ患者妊娠、
分娩、產褥、出産等ナシ然ルニ昨年八月中旬陰部ニ下疳
ヲ發生シ次テ兩鼠蹊腺炎ヲ呈シ次テ肛門周圍ニ梅毒性
コンデローム、ヲ發生シタリ同九月下旬突然惡寒發熱
シ次テ大陰唇后部所女膜痕ノ前方ニ於テ鶏卵大ノ腫物
ヲ發生シ疼痛劇甚ニシテ歩行スル能ハサリシカ終ニ十
月頃自開ノ多量ノ膿汁ヲ排泄シカ爾來瘻孔治スルコナ
クシテ該孔ヨリ糞便ヲ排出スルニ至レルヲ以テ終ニ本
年三月二十八日金澤病院ニ入院スルニ至レリ此レヲ檢
スルニ体格榮養共ニ良ナリ陰部ヲ檢スルニ大陰唇ハ互
ニ接着シテ小陰唇ヲ被フト雖モ稍々充血糜亂ノ狀ヲ呈

ス左大陰唇ノ内面ニ於テ恰モバリトリニ腺部ニ於テ
欠損部アリテ其下方示指ヲ挿入シ得ヘキ孔アリ此孔ハ
膺内口部ニ向ヘリ此孔上ニ二個ノ橋狀片ヲ有ス此ノ瘻
孔ハ知覺過敏ニシテ試ミニ示指ヲ挿入セントスルニ疼
痛大ナリ消息子ヲ挿入セシニ直腸下部ニ其尖端ヲ觸ル
(手術及經過ハ次號ニ讓ル)
然リ而シテAナル場合ニアリテハ其原因不明ナリ然レ
モ余カ會テ瀨尾醫學士ノ「クリニツク」ニ於テ日本人ニ
比例的内痔瘻ノ多キハ恐ラク日本人ハ魚肉ヲ其骨ト共
ニ食スルニヨリ其骨ハ消化セラル、コナクシテ直腸ニ
至リテ今ヤ肛門ヨリ排泄セラレントスルニ際シ刺傷ヲ
生シテ痔瘻ヲ生スルナラン?トノ說アリシカ余ハ彼ノ
瀨尾醫學士ノ說ニ從ヒ糞便ノ正ニ排泄セラレントスル
ニ際シ魚骨片カ直腸壁ヨリ膺ニ貫通スルカ若クハ内痔
瘻カ膺壁ニ通シテ慢性ニ全通スルニヨリ來ルナラン哉

ノ疑ヘナ出セリ又Bナル場合ニアリテハ其原因勿論バ
りどりん氏腺ノ化膿ニ基クヤ必セリ何トナレハ該瘻孔
ヲ造ル前ニ於テ己ニばうどりん氏腺炎ノ諸症候ヲ現發
セルヲ以テナリ然リ而シテしろいである、ろいて及日本

山崎元脩氏其他二三ノ成書ヲ繙キシニ毫モ其原因ノ記
載ナシト雖モ余ハ恐ラク産婦ニアラサル以上ハ此二原
因ニ大關係スルモノナリト考フ而シテ彼ノ直腸膿瘍ノ
輕度ノモノ即チ余カ甲ノ場合トシテ論シタルモノハ恐
ラク醫師ノ注目外ニ出ツルモノニシテ患者自己モ其症
狀恰ント欠亡セルヲ以テ又注意外ニ出ツルコト多カラ
トス而シテ醫學士山崎元脩氏ノ著書ニ係ル婦人病論ニ
曰クばりどりん氏腺若シ膿ヲ醸スコアルモ決ノ腔中或
ハ直腸中ニ泄口ヲ開クコトナシト云フト雖モ決ノ然ルニ
アラス其腺ノ排泄管ノ閉止シルヤ「チステ」ト同一ニ膨
大シルモノニシテ其一部ハ腔ニ一部ハ直腸ニ向フテ發

生ス何トナレハ腺ノ外圍ハ坐骨枝アルヲ以テ止ムヲ得
ス后方ニ向フテ發生スルニアリソレ故ニ直腸内診ニヨ
リ必ス該腫物ヲ觸知スルコトヲ得一度此腺炎カ直腸内ニ
破潰シ次テ糞便ノ刺戟ヲ受クルカ又ハ排泄孔ノ開通ス
ルニヨリ初メテ直腸膿瘍トナル

以下次號

如キハ明カニ之レヲ記載スル者ニ乏シク只ダHayem氏